

## 第7回 神奈川県営水道事業審議会 水道料金部会 議事要旨

### 日時

令和5年7月10日（月曜日） 10時00分～13時00分

### 主な議事内容

- 前回部会の意見を踏まえて再度実施した料金シミュレーションの結果について議論を行った
- 「水道料金のあり方」に関する答申素案について審議を行った

### 主な意見（議事要旨）

- ▶ 審議会本体で審議いただく対象は、改定案2つの比較になると思われるため、増減率のモデルケースや世帯数、使用者割合といった情報を組み合わせた表を示すのがよい。
- ▶ 業務用の一部で増減率が100%を切る部分が論点になる。なるべく100%に近づけようと努力して模索しながら調整されたことは説明から感じ取れた。そういったプロセスがうまく見える化されるとよい。
- ▶ どうしても少数世帯の負担が大きい印象を受ける。かかった原価をきちんと負担していただくという「あり方」に立ち返って考えるのであれば、こうならざるを得ないため、致し方ない部分ではある。きちんと理屈的に整理してきた結果であり、残るはどこに配慮するかという部分だと思う。
- ▶ 水道料金のあり方について「経営の安定化と負担の公平性の両面」とされているが、「生活用水への配慮」、「生活用水の低廉性の確保」という点も考慮してきた。
- ▶ 現状の経営環境を見ていると、支出面で労務単価の上昇やエネルギー価格の高騰がすでに進んでいるため、答申素案には、現状を踏まえているといった趣旨の文言を追加した方がよい。
- ▶ 口径別料金体系という趣旨では「受水可能な量」という形になるが、それを前提にしながら、実使用量も受益にあたるのではないか。それを明確にしないと、単に使えるかどうか、利用可能性に関わる問題が受益だと短絡的に捉えられないか懸念がある。

### 閉会

- ▶ 答申素案（「水道料金のあり方」に関する部分）については、部会長一任とされた。